

暫定議題

第 26 回科学委員会に付属する拡大科学委員会

2021 年 8 月 23—31 日

1. 開会

- 1.1. 参加者の紹介
- 1.2. 会議運営上の説明

2. ラポルツァーの任命

3. 議題及び文書リストの採択

4. SBT 漁業のレビュー

- 4.1. 国別報告書の発表  
*メンバーは、会合前に [ESC に対する国別報告書テンプレート](#) により国別報告書を提出することとされている。*
- 4.2. 事務局による漁獲量のレビュー

5. CPUE 解析の進捗状況

*2020 年の ESC 会合は、CPUE 解析の進捗は SRP における優先分野の一つであるとした。2020 年において ESC は、2020 年 ESC 会合報告書パラグラフ 183–187 に要約された CPUE 関連作業のうち（少なくとも）最も優先度の高い事項を進めることができるよう、コンサルタントを含む少数の専門家サブグループを招集するのに十分なリソースを利用可能とするよう勧告した。この作業を実施するために雇用されたコンサルタントは、会合での議論に向けて本作業の進捗状況にかかる文書を作成する予定である。*

6. 科学調査計画及びその他休会期間中の科学活動の結果のレビュー

- 6.1. 科学活動の結果
- 6.2. 非メンバーによる SBT 漁獲量に関する解析のアップデート  
*2020 年の ESC は、更新された非メンバー UAM の推定値は OM 及び TAC 設定に影響を及ぼし得ることに留意し、次の MP チューニングにおいて取り入れられることとなる更新された推定値は 2022 年までに必要となるものと考えられることに合意した。ESC は、メンバーに対し、2021 年の ESC で検討することができるよう、休会期間中に非メンバー UAM の推定に関するより詳細な提案を作成するよう奨励した。*
- 6.3. 市場での製品流通量に基づく全メンバーの漁獲量の検証  
*2020 年の ESC は、日本による「[全メンバーの漁獲量を検証するための日本での SBT 流通量のモニタリングに関する提案](#)」について検討した。同提案は、2020 年の拡大委員会 (EC) 会合において承認された。同提案では、「日本における全メンバーの漁獲量の検証」と称された同提案のうちパート A の大部分を検討する場として ESC 及び EC を指定している。日本は、同プロジェクトの進捗状況について報告する予定である。*

- 6.4. 2019年にケープタウンで開催されたESC会合において発表及び議論された日本市場解析にかかる独立レビューによる勧告に対応するために為された進捗状況に関するアップデート
- 6.5. 2019年にケープタウンで開催されたESC会合において発表及び議論されたオーストラリア蓄養解析にかかる独立レビューによる勧告に対応するために為された進捗状況に関するアップデート

## 7. 漁業指標の評価

## 8. SBTの資源状況

## 9. SBTの管理に関する助言

- 9.1. メタルール及び例外的状況の評価
- 9.2. SBTの管理に関する助言の概要

## 10. オペレーティング・モデル及び管理方式

### 10.1. メタルールにおける欠落データに関する検討

2020年のESCは、次回のESC会合において、入力データが欠落した際にどのようにTAC計算を進めるのかについてさらに明確化するべく、ケープタウン方式に関して勧告されている全体的な仕様書への追記を検討することに合意した。

### 10.2. OMMPコードのメンテナンス及び開発

2020年のESCは、2021年に行うOMMPコードのメンテナンス及び開発のためのリソースを要望した。本小議題項目は、本件に関する進捗状況を報告するための議題である。

## 11. 科学調査計画（SRP）のアップデート

2020年のESC会合は、資源評価結果のレビュー及びTAC設定のための管理方式（MP）の運用が優先されたため、同会合ではSRPの包括的なレビュー及び策定を行うことができなかったことに留意した。SRPの包括的レビュー及び策定は2021年のESC会合において再検討される必要があり、メンバーは休会期間中に調査の優先度について検討するとともに具体的な提案を策定するよう奨励されている。

ESCは、2020年の財政運営委員会（FAC）及びECはESCが勧告した電子標識プロジェクトを支持しなかったこと、及びFACは、将来においてESCが新たな調査を要望する場合、FACがその他の科学向けの支出に対する当該作業の相対的な重要性及び優先度についてより良い理解を得ることができるような追加情報を付帯させるよう勧告した点に留意すべきである。

## 12. ESC と拡大委員会との間のコミュニケーションの改善

2020 年の拡大委員会 (EC) 会合において、一部のメンバーは、過年にわたる資源再建に関するポジティブな情報を踏まえて MP は TAC の増加を勧告するであろうと想定していたこと、及び実際にはそうはならなかったことに対する失望を述べた。

あるメンバーは、同メンバーの期待と実際の結果の間にギャップがあったのは管理戦略評価プロセスにおける科学者と行政官との間のコミュニケーション不足に起因するものと考えたと述べた。当該メンバーは、2019 年の EC に対して、ESC は考え得るリスク (例えばどのような状況であれば TAC は増加しないのか) に関する情報を提示すべきであったと述べた。

EC は、将来における誤解の防止に資するためには ESC と EC との間のより良いコミュニケーションが必要であったことに合意した。EC は、ESC に対し、どうすればこれを実現できるかについて検討するよう指示した。メンバーは、どのようにしてこのコミュニケーションを改善するかに関するアイデアにかかる文書を提出するよう要請されている。

## 13. 2022 年におけるデータ交換要件

## 14. 調査死亡枠

## 15. 2022 年 (及びそれ以降) の作業計画、スケジュール及び研究予算

15.1. 2022 年の調査活動案の概要、スケジュール及び見込まれる予算と、作業計画及び予算に対する科学調査計画の影響

15.2. 次回会合の開催時期、期間及び構成

## 16. その他の事項

## 17. 会合報告書の採択

## 18. 閉会